

## 1. 基本方針について

“今置かれている現状で、ご利用者の安全な生活を継続して行く”。また、“尊厳が保持されるとともに、居場所づくり、交流の場・ご利用者との関わりの時間を大切に、「ホームの家族」のスタイルを崩さず暮らしを支えて行く。”と云う本年度の方針については、ユニット数も職員数も大きな変動がなかったことから、いつもながらの普通の生活が維持できたと思います。

また、顔なじみの関係のなかで、「信頼関係」と「馴れすぎ」の介護に、時として悩むことがありましたが、再度、ユニットケアの本質に戻るため、各委員会や諸会議等で、職員の意識向上と介護技術を取り上げ改善に努めることで、生活の質を下げずに“いいたてホームならではの”の生活を提供できたと思います。

## 2. 現況について

本年度はご利用者45名、看護師3名、介護員32名のスタートとなり、9月に2名、2・3月に各1名ずつ新入居者を迎えることができました。

然しながら、震災後5年が経過、職員の長距離通勤問題と疲れ、また、職員の平均年齢が高くなると共に、ご利用者の状態も年々重度化して行く現況下においては、何かにすぎる思いでした。

それでも、職員の頑張りと使命感に伝えるべく、新たな福祉用具の活用や業務の見直しを行い、また、震災後から継続勤務している職員を大切に考え、無理せず今できる最良の介護をしていく方針で実践してきました。

今後も「いいたてホームならではの」のケアを継続して行くため、ご利用者が1回でも多く笑顔を見せてくれるよう、施設と云う概念に捉われず、職員と共存している「生活の場」であることを念頭に置き、原発事故から守らなければいけない「安全」「安心」の環境の場で、普通の生活を過ごせるよう努めて行きたいと思います。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数	45	44	43	41	39	41	41	39	39	37	38	38
退去者数	1	1	2	2	0	0	2	0	2	0	1	0
新入居者数						2					1	1

(利用者の入居状況)

## 3. 重点目標について

### (1) 重度化への取り組み

年々高齢となり身体機能の低下による重度化もありますが、認知症状の進行による重度化

が高くなってきています。1年前と比較し、出来ていたことが出来なくなってしまうことは、本人はもちろん、ケアをする職員も戸惑いながらのケアでした。

しかし、多職種間とのケア会議を行い、症状に対し早期に対処できるよう努めてきました。寝たきりにさせたくない、孤独を感じさせないケア、また、直面する問題等は必ず職員間で周知し、施設職員が同じケアが行えるよう取り組んできました。

## (2) 暮らしに寄り添う

馴染みの環境だからこそ、馴れ過ぎないように個々を捉えたケアに努めてきました。

ご家族の面会の時間が増えるよう、今年度も行事への参加を呼び掛け、一緒に楽しめるよう努めてきました。

また、施設内だけの生活ではなく、外出の機会を増やし社会参加ができる環境に取り組んできました。

## (3) 最期を迎える

今年度は、11名の方を見送りました。その人らしい最期を迎えられる大切な時間への支援をしてきました。

看護職、栄養士、厨房職員の協力を頂きながら、最期まで口から食べることが出来た方、褥創や壊疽状態の処置、「きれいな身体で逝きたいよね」と亡くなる前日まで入浴をし逝かれた方。

私たちは、看取りに慣れることなく、最期まで諦めないケアをしてきました。

## 4. 具体的な取り組み（会議・行事等）

### ① 職員会議

年月日	議 題 ・ 内 容
H27.4.30	今年度の事業計画（ホーム、厨房、各家）、各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会より活動計画（口腔、入浴、排泄、リスクマネジメント、感染症対策）
5.28	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～入浴委員会（お風呂の日について）、口腔ケア委員会（口腔ケア勉強会について）、排泄委員会（排泄マニュアルの見直しについて）、リスクマネジメント（移乗勉強会・アクシデント集計報告）、感染症委員会（手洗いについて）
6.25	各家の取り組み、厨房会議報告（一斉家料理について） 各委員会～口腔ケア委員会（口すぼめ体操について）、入浴委員会（温泉ツアー企画について）、排泄委員会（アセスメント見直し・足台作成について）、リスクマネジメント（移乗トランスファ勉強会・アクシデント集計）
7.30	各家の取り組み、厨房会議報告、 各委員会～リスクマネジメント（体圧分散、車いすの疑似体験勉強会について）、入浴委員会（お風呂の日実施報告）、口腔ケア委員会（唾液腺刺激体操について） 感染症対策委員会（食中毒予防三原則）、排泄委員会（手指消毒実施状況について等） 研修報告「老人福祉施設 在宅部研修会」（木幡久美子、斉藤 伸、菅野麻美） 「認知症高齢者対策研修」（江口真由美） 「ユニットリーダー研修」（菅野明洋）
8.29	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～口腔ケア委員会（口腔ケア体操（新バージョン）、排泄委員会（おむつ交換と手指消毒について、ポジショニング）、入浴委員会（リフト使用マニュアル、入浴シート見直し）、リスクマネジメント（アクシデント集計報告） 研修報告「福祉職員 初任者研修」（江口真由美） 「県社協・老人福祉施設協議会介護職員研修会」（菅野ミサ子、佐藤 恵） 「県社協・老人福祉施設協議会給食担当者研修会」（西 恵子）

9.24	<p>各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～リスクマネジメント委員会(上半期のマネジメントについて)、排泄委員会(排泄交換マニュアル、ポジショニング勉強会について)、入浴委員会(西特マニュアル作成について)、感染症対策委員会(感染対策について)、口腔ケア委員会(口腔ケア勉強会アンケートについて)</p> <p>研修報告「機能訓練担当者会議」(菅野若菜) 「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」(高池タミ子) 「虐待対応専門職チーム特養介護施設向け研修」(菅野若菜、触沢敏恵、小林明美)</p>
10.29	<p>各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～口腔ケア委員会(口腔ケアアンケート、口腔ケア手順表について)、排泄委員会(ポジショニング勉強会、体圧分散勉強会について)、リスクマネジメント(内出血報告書について)、感染症対策委員会(インフルエンザ予防対策について)</p> <p>研修報告「全国老人福祉施設研究会議」(高橋真由美、菅野奈津江) 「福祉職員キャリアパス対応生涯過程」(本名順子)</p>
11.26	<p>各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～感染症対策委員会(インフルエンザ予防について)、入浴委員会(お風呂の日について)、排泄委員会(ポジショニングについて)、リスクマネジメント(アクシデント集計について)</p>
12.25	<p>各家の取り組み厨房会議報告 各委員会～入浴委員会(お風呂の日実施報告、西・北特浴について)、感染症対策委員会(ノロウイルス・インフルエンザ対策の実技)、排泄委員会(排泄用品の選定、ポジショニングについて)、口腔ケア委員会(口腔ケア勉強会について)、リスクマネジメント(ベッドリモコンのコード固定、アクシデント集計、今月の標語について)</p> <p>研修報告「介護職員(4年以上)研修会」(菅野明洋、佐藤ミツイ)</p>
H28.1.28	<p>各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～口腔ケア委員会(口腔ケア勉強会)、感染症対策委員会(インフルエンザ・ノロウイルス予防について)、入浴委員会(北棟特浴マニュアルについて)、リスクマネジメント(言葉づかいについて)、排泄委員会(プライバシー(排便管理)について)</p>
2.25	<p>各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～感染症委員会(インフルエンザ・ノロウイルスについて)、リスクマネジメント委員会(内出血報告書使用、アクシデント集計)</p>
3.24	各家の取り組みと1年間の生活報告、厨房会議報告、各委員会より事業報告

## ② 家長会議

各家(ユニット)の家長が、現状の業務や勤務体制を見直す検討の場であり、直面した問題に現場レベルで具体的に話し合い改善してきた。

開催日	内 容
H27.4.20	年間活動計画について、ユニット勉強会について、年間行事について、家族会総会について、家料理、希望食等について
5.29	業務の見直しについて(西・北棟の夜勤業務等)、家料理について、環境委員会(ワックスかけ等について)
6.26	夏祭りについて、家料理について、7月の行事について
8.1	監査について、納涼祭について、敬老会について
8.24	年次休暇と勤務変更について、納涼祭の反省について、敬老会について
9.19	敬老会の反省、10月の行事食(バイキング)について
10.10	監査(指摘内容)について、買い物(利用者個人購入と家費の使用)について、介護用品、福祉用品の管理について、芋煮会、ミニ運動会について、その他
11.30	12月・1月の行事(そば打ち、クリスマス、新年会)について、高所掃除について
H28.1.13	100歳賀寿祝いについて、2・3月の行事について、家費について、今年度の反省と次年度の事業計画について
3.1	防災の日について、行事(ひなまつり)について、ユニット勉強会について、年間行事の食事について、環境委員会(ワックスかけ、居室掃除等)について

③ 行事

平成 27 年度行事内容

月日	内 容		場 所	参加者
4.9	花見外食 ドライブ	相馬（八幡神社）へ、リフト車 2 台に乗車し花見ドライブ。昼食は原町区の「レストランタイム」で食事を楽しみました。	相馬市・南 相馬市	12 名
4.17	花見外食 ドライブ	ぬくもりの家が花見を兼ねて川俣町（中央公園）へ。寿司弁当を買い、外で桜の花を見ながら昼食をとりました。	川俣町	6 名
4.24	花見ドライブ	遠出できない方を主に、リフト車 2 台に乗車し村内花見ドライブに出掛ける。其々自宅周辺を見られる方面とした。	飯館村内	9 名
4.29	家族会総会 花見昼食会	家族会総会后、各家で厨房手作りの花見弁当で、ご家族と一緒に食事を交え交流を深めました。	全ユニット	16 家族
5.7	柏餅づくり	西棟ホールで柏餅をつくる。軟食の方でも食べられるよう、栗餅風の柏餅を作り、殆どの方が食べることができました。	西棟	
5.19	外食ドライブ	各家ごとに外出の機会を設け、馴染みの職員とのドライブ。こもれびの家が、レストラン（レストランタイム）で食事し、道の駅（セテッテ鹿島）を見学してくる。	南相馬市	12 名
5.21	外食ドライブ	ひだまりの家のご利用者の希望にて川俣町へ外食ドライブ。普段、キザミ食やペースト食の方が、お店（吟哉）の親子丼や寿司を食べ満足笑顔で来られた。	川俣町	10 名
6.4	外出ドライブ	やすらぎの家が川俣方面に外出。長時間の外出と常食が難しい方でも、道の駅のアイスクリームを食べ大満足	川俣町	9 名
6.12	一斉家料理	厨房職員が各ユニットに出向き一緒に食事作り。野菜を切る皮をむく等の作業を行いながら食への楽しみの時間を作った。	全ユニット	全員
7.5	七夕昼食会	各棟で七夕昼食会を行う。そうめんを寿司桶に盛り付け、てんぷら、フルーツポンチ等を食しながら、カラオケを楽しんだ。経管栄養者もホールに移動しゆっくりと交流を図る	西・北棟ホ ール	入居者 全員
7.8	ホーム温泉 ツアー	初の試みで、生きがい作りを目的に、飯坂温泉（吉川屋）に日帰りで行ってきました。入浴介助で貸切風呂と露天風呂に入り、昼食はお膳でゆっくりと温泉気分を味わって来ました。	穴場温泉	利用者 7 職員 10
7.15	一斉家料理	2 回目の家料理は各家の希望メニューとし、ご利用者に合わせた食形態を考慮しての家料理となりました。	全ユニット	全員
7.19	お風呂の日	外出できない方に温泉気分を味わってもらおうと、ホームの一般浴を銭湯の雰囲気（紫陽花風呂）にして、お風呂を楽しんで頂き湯上りには冷たい飲み物で寛いで頂いた。	西棟特浴	10 名
8.20	納涼祭	ご利用者の体調を考慮し、涼しくなる時期に夏祭りの代りとして東棟ホールで納涼祭を行う。数多くの模擬店や金魚すくい夕食には鉄板焼き料理等、お祭り気分を味わい、最後に東棟玄関前庭で花火を見て楽しみました。	東棟ホール	全員
9.13	ホーム敬老会	職員の余興（大黒舞、芸者ワルツ、ギターとオカリナの演奏等）で楽しみ、昼食は厨房手作りのお祝い膳を頂きました。	西棟ホール	全員
10.7 13、22 27、28 30	外食ドライブ	各家ごとに楽しみの外食ドライブ（つきだて花工房や道の駅、吟哉、ジャスコ）を行うことで、職員との交流をより一層深められたと思います。また、普段とは違った環境での食事や外気浴では、普段とは違った笑顔など見せていました。	伊達市 川俣町 相馬市	35 名
10.18	バイキング食	厨房の手作りバイキング食の豪華さに驚きながら、目の前に盛り付けられた食事。皆、好きな物を選択し食べている様子は嬉しそうで普段より食事量も増えていました。	西・北 ホール	全員
10.21	「ラーメン屋」	全館停電にて、厨房職員が西棟ホールにて「ラーメン屋」の出張料理をして頂く。ご利用者の殆どがラーメンが好きで、大きな丼で召し上がっていました。	西棟ホール	全員
11.1	村文化祭	村文化祭（パルセ飯坂）へ作品出品したご利用者 3 名と出掛けました。ひだまりのご利用者の作品が見事村長賞に輝き、表彰式にも出席しました。また、他の 2 名も自分の作品を見て嬉しそうでした。	福島市	3 名

11.3	ホーム芋煮会 ミニ運動会	ミニ運動会では、玉入れやパン食い競争を行い、ご家族や職員と共に楽しまれ盛り上がりました。 昼食では、男性職員やご家族の方による餅つきを行い、つきたての餅を美味しく頂きました。厨房からは、手作りのローストビーフやおでん鍋の提供もあり目と舌で楽しめました。	東棟ホール	全員
12.20	クリスマス会	西・北棟合同のクリスマス会を行いました。ご利用者全員でクリスマスの衣装を着、ハンドベル演奏を披露した後、厨房手作りのローストチキン等頬張り、楽しく過ごしました。	西棟ホール	全員
12.23	そば打ち	年越しを前に、愚心会の皆さんがそば打ちのボランティアに来所。一緒にそば粉を練って楽しみ、茹で上がったおそばを食べながら皆さんとの交流を楽しみました。	西棟ホール	全員
12.27	餅つき	恒例の餅つきを西棟ホールで行いました。お供え餅と昼食に食べる餅をご利用者と共につき上げました。昼食にはクルミ、ジュウネン、お汁餅等で美味しく頂きました。	西棟ホール	全員
1.2	新年会	新年の顔合わせ。今年は、おみくじ（大吉・中吉・小吉等）を準備し、商品等も準備、一年の運試しに一喜一憂の初笑いとなった。昼食には、厨房からの正月弁当を味わいました。	西棟ホール	全員
1.14	だんごさし	職員が赤、黄・緑に染めた粉を小さくちぎり、ご利用者が一つずつ丸めミズノ木にさし、各家やホールに飾りました。	西棟ホール	10名
2.3	百歳祝い	ホームでは、7人目の百歳をお祝いしました。震災後、ホーム全体でのお祝いは初めてであり、県からの賀寿表彰の後、ホームのセレモニーを行った。職員の祝い舞踊や、厨房手作りのケーキ等でお祝いができました。	西棟ホール	全員
	節分「豆き」	賀寿祝いをを行った後、「福は内」のみの声かけで、今年の年女（ご利用者96歳、84歳）が豆まきを行いました。	全館	全員
3.3	ひなまつり会	今年は風邪等の感染の心配もあり、交流をせず各家での昼食会を行った。厨房職員が目の前で寿司を握って出してくれました。	全ユニット	全員
3.11	防災の日	震災を忘れないために、食事の非常時の対応として、昼食は非常食の提供をすることで、振り返る時間を持ちました。	全館	全員

## 1. 生活全般について

4月の異動で4名の職員が入れ替わり新体制となりました。

精神的に不安定な方に対しての関わり方については、日々の過ごし方のケア内容を職員同士で話し合い、統一したケアを提供できるようにすることから始まりました。

まず、体重の維持管理をするため毎日体重測定を行い、その結果により食事に気を配り、また、精神面では、過剰過ぎない声掛けや対応に努め、本人らしく生活できるよう細やかな申し送りや、食事チェック表を作成。それを基に個々に合った支援をすることで、徐々に意思表示が出来るよう体制作りをしてきました。現在では、そんな私達を受け入れてくれ笑顔やジョークに伝えてくれる関係になりました。

一方、意思疎通が困難な方（問いかけに答えがない）に関しては、とても悩まされた一年でもありました。

この方は「今、何をして欲しいんだろう」と思い、色々と試みるものの上手く行くケースが少なかったため、どのようにしたら寄り添ったケアが出来るのか考えさせられました。

## 2. 食事について

一人ひとりの食事形態の見直し、摂取状態の変化にも合わせることで、食べることへの意欲に繋げてきた。例えば、ペーストの方でも食事内容を工夫し、形のあるものを提供することで、美味しく食べて頂こうと随時検討してきました。また、摂取量に問題のある方に対しては、食事チェック表を作り、それを基に申し送りで提供方法を統一したり、多職種と相談しながら状態に合わせ食事提供が出来たと思います。

春と秋にドライブを兼ね外食に出掛けましたが、普段と違った雰囲気と環境の中で、普段では考えられない食べっぷりを見ることができ、とても参考になりました。

家料理では、家庭的な雰囲気を味わって頂くため、前年度のようにご利用者の好むメニューの提供と同じ目線で調理することにより、より一層楽しみに繋がったことと思います。更に今後は時節の食材をふんだんに使った料理が出来ればと思います。

昼食前の食前体操では、恥ずかしくて行えない方や発声が出来ない方に対し、独自の発語を試みましたが、励行するまでには至りませんでした。しかし、こちらからアクションを掛けることで、相手が笑顔となることから、概ね、意欲を出させることについては出来たのではないかと思います。

## 3. 排泄について

日頃から肌の観察を行い、個々に合ったパットの使用や、その日の体調や状態に合わせてパットを提供することで、皮膚トラブルを防ぎ、違和感がなく快適に過ごせて頂けたと思います。

また、定期的に排便コントロールを行うことで、排泄のすっきり感や爽快感に努めることが出来たと思います。

プライバシーの配慮に関しては、今後も普段の言葉遣いや声のトーン、食事時間や職員間での伝達時、その他の場でも、話題に挙げないよう留意して行きたいと思います。

#### 4. 入浴について

個々に合った入浴を提供するため、その方にとってどのような入浴方法（個別浴か機械浴か）が適しているか、また、どのような補助用具を利用すべきか、多職種と相談することで本人に合った入浴法にたどり着き、安心して楽しく入浴することが出来たと思います。

また、入浴剤や入浴後のローションで対応することにより、肌の保湿効果と皮膚トラブルを防ぐことが出来ました。

今年度は、その他に浴室内に季節感を感じ取れる環境を提供したいと、周りに季節物を置きましたが、これだと云うような環境づくりまでには至らなかったことが残念でした。

#### 5. 行事の取り組みについて

震災後、百歳賀寿のお祝いをホーム全体ですることができました。

4月から少しずつ準備を重ね、本人の体調管理等にも職員が一丸となってお手伝いさせて頂きました。賀寿当日は、ご家族が準備した着物を着用し、懐かしい写真をスライドで流し、その方の人生が見えたような気がしました。このような貴重なお祝いに関われたことは、介護の仕事をしていて幸せだなと思った瞬間でした。

納涼祭では、甚平や浴衣姿で参加し、涼しげな雰囲気でも長時間、楽しく過ごすことができたと思います。

また、芋煮会では、ご家族も参加した競技で盛り上がり、普段見られない笑顔と歓声があり、とても良い表情を見ることが出来ました。

#### 6. 一年を振り返って

今年度になり間もなくして職員4名体制となりました。

何かと他ユニットからの業務協力を頂きながら成り立ってきた一年でもありました。

他ユニットの視線だからこそ分かる私達の家との違いについて、伝えて頂き、改善に努めることもできました。

今後も、出来ること・出来ていることを継続できるよう、また、体調や精神面でのフォロー、メンタル面で支えになれるよう、十分なコミュニケーションを図りながら、笑顔が自然にできるケアに取り組んでいきたいと思っています。

#### 《ご利用者のつぶやきから》

「おら・なんぼまで生きんだが」と笑顔で話ながら、黙々と縫物をされている姿を見ると、これからも後悔しないケアと、一日一日を楽しく過ごして頂けるよう支援して行かなきゃと思います。

## 1. 生活全般について

ご利用者7名、職員5名からの新たな出発。退居や入居が見られたが人数に変化はなく、目標の「笑顔を絶やさず、涙するのと一緒に、今日も良い一日だった」と思ってもらえるようにと職員一同サポートにあたって来ました。

常に「楽しいと思ってくれるものは何だろう」と考え、職員の得意とする分野で寄り添い、炬燵が一か所では窮屈だろうと増やしたり、天気の良い日は外気浴などと。ご利用者への想いが行動に繋がる事を改めて感じました。

寄り添い方、声かけ一つにしても上から目線では相手は納得しない、訴えに対しては「何をしたいのだろう」と思いやって会話をしなければならず、その対応の難しさがある二人のご利用者から勉強させて頂きました。

今後も自分に余裕を持って相手の話を傾聴し、他職の意見も交えながら気持ちに余裕がある介護に努めて行きたいと思えます。

## 2. 食事について

食べる事は生きる上で一番大切な事、食事途中で咽ってしまったたり、配膳前に食べ易いようにと勝手に形を崩してしまい、何を食べているか分からないような悲しい食事になってしまった事が見られました。今では「今日のおかずは何々ですよ」と話し掛け、「どのお皿が合うかな」「これでは咽るかも」と思った時は、「この方が食べ易いですか」「小さくしますか」と尋ね、本人が納得した上で手を加え楽しく食事を摂って頂いています。

家料理に関して協力的で「どれ、何すれば良いんだ。持って来い」と快く引き受けて下さり、とても美味しく皆さんと一緒に料理を作る事が出来ました。

食事テーブルの高さについては、一つのテーブルを炬燵に変えた事により温かさに関しては良かったのですが、高さが低くなり食べる姿勢が悪くなってしまいう事に繋がり、炬燵の高さ調整用の足を付け改善してきました。

口腔ケアについての反省は、「準備だけして置けば電動ブラシだし出来るでしょう」と甘い考えを持ち最終確認を怠ってしまった時があり、「やってしまった、こんなに歯石が溜まってしまった」と深く反省しました。「何でも出来る方でも本当は角度を変えた支援を必要としているかも」との考えで前に進んで行ければと思います。

## 3. 排泄について

昨年に引き続きオムツゼロを目指し行って来ました。トイレ移動の際に如何にして本人に苦痛なく出来ないものかと考え、隣の家の職員にお手伝い頂いたり、福祉用品を使ったりと気持ち良く排便出来るよう試みています。また、「昨晚奇妙な行動が見られたんですよ」などの申し送りを受け、排便チェック表を確認すると「あ、出てない。だからか」と気づき、排泄はとても大切な事だと改めて感じました。

ある方については、私たちが如何に楽をさせて頂いて居たことか。一日十数回トイレに通い用を済ませていたが体調変化により尿カテーテルに変更、カテーテルの理解が出来ず「トイレに行きたいんだ、小便したいんだ」と大声で訴え、「カテーテルが入っているのですから大丈夫ですよ」と伝えても、その方にとってはカテーテルなんて関係なく、とにかくトイレに行きたいだけなんだと考えさせられた一年間でした。

言葉遣いに関しても、つつい大きな声で確認をしてしまうと云ったことが多々見られたので改めて大きな目標の一つとして行って行きたいと思えます。



#### 4. 入浴について

「あ〜良い風呂だった、また入りたいな」と思って頂けるような入浴を目指し行ってきましたが、現実には「入りたくね。」の言葉が頻繁に聞かれていました。入りたくないと思う原因に「洗身中寒い」「服を脱ぎ着するのが面倒だ」など様々です。しかし、嫌々ながらも湯船に入ってしまうと「気持ち良いな〜」と細目になる。

気持ち良く利用して頂くための対策として、丁寧な声掛けや、直接湯船に入り温まってから自分で身体を摩るなどの入浴形態に変更し様子を見ています。他に入浴中に音楽を流し楽しんで頂いたり、一緒に口ずさんだり、入浴剤として、柿の皮を干したものをお風呂に入れたり、柚子湯、菖蒲湯、林檎湯などで楽しみ、入浴後は乾燥防止として保湿クリームを塗布、皮膚トラブルを未然に防ぐように留意してきました。また、異常を認めた場合は速やかに医務に報告し対応してきました。今後も安心且つ安楽でお風呂を楽しんで頂けるようお手伝いをしていきたいと考えています。

#### 5. 行事等の取り組みについて

食事を兼ねた花見ドライブや夏祭り、芋煮会等、様々な行事に参加する事で、他の家との交流を深める事が出来ました。特に思い出深いのは、相馬方面へ食事と海を見せたいとの目的で計画を立てた行事。出掛ける間際になって1台の車がエンジントラブル、出発時間が遅くなり海を見せたいという目的を果たせぬまま帰る羽目に、その際、またもやエンジントラブル発生、無事帰って来る事が出来ましたが、ご利用者の目に映ったのは「雁首揃えて何やって居るもんだか」と言葉通りの光景でした。

大きな行事以外にも、干し柿作りや野菜作り、その野菜を使っての家料理、誕生会など行う事が出来ました。そんな中で、これまで行事やレクには参加拒否されていた方が自ら参加したいと回数が増えた事はとても嬉しい出来事でした。逆に、ちょっと残念な事は誕生会などにご家族の方の参加が少なかった事です。次年度はご家族から「是非参加させて下さい。」との返事が頂けるよう働きかけていきたいと思えます。

#### 6. 一年間を振り返って

長いようで短かった一年間でした。嬉しい事、悲しい事、悔しい事など沢山の思い出が頭を過ります。

誕生日を間近に控えながら旅立った方。最愛の息子さんに看取られての出発でした。

6月には体調不良により2週間の入院を余儀なくされた方。9月には新たな入居者。年明けには数名の方がインフルエンザで隔離状態になり心細い思いをさせてしまった事など思い出されます。

この一年間、付き合い方の難しさを思い知らされた感じでした。

他人でも関わり方に寄って「今日はありがとう」「もう帰るのか、気をつけてな」と優しい言葉を掛けてくれる方、「誰々さん」「え、今の俺の名前、いつ覚えたのだろう」と頼りにしてくれる方に対し、「今日はどのような声掛けをしてくれるんだろう」と職員の方が楽しみに会話をします。正直、不穏状態になると「ちょっと面倒だな」と思ってしまいますが、何故、不穏状態を起こしてしまうのか、職員一人ひとりが、個々に寄り添い耳を傾けケアに取り組んで行かなければならないと感じました。

## 1. 生活全般について

日差しが暖かい日には居室から出て日光浴を楽しみ、季節毎に咲いている綺麗な花などを見、四季を感じながらの生活が出来ました。

我が家は、すぐ外に出れる利便性の良いユニットなので、季節感を肌で感じる事ができ、重度化している方でも、ゆったりと語らう環境づくりが出来ました。また、重度の方の外食は無理でしたが、季節感を味わうことが出来るドライブをしながらアイスクリームを食べる事が出来とても良かったと思います。

面会については、避難先が村外と云うこともあり足が遠のいているように感じました。しかし、面会時には近況を報告したり看護師を交えて意見交換等をしてきました。

今年度は1年間に3名の方が亡くなりましたが、最期までご家族との連絡は途絶える事がなかったと思います。2月には1名の方が入居され、今までは静かな雰囲気ユニットでしたが、一気に賑やかになり会話と笑いのあるユニットに変化しつつあります。今後もコミュニケーションを密に図りながら少しでも寄り添えるケアをして行きたいと思います。

## 2. 食事について

4月当初、ペースト食や超刻み食、経管栄養、軟食、高カロリーゼリー等の方が殆どであり、食が進まない方々に“どうしたら皆さんに食べて頂けるか”試行錯誤の毎日でしたが、多職種の職員と毎日のように話し合い、個々にあった食事形態や栄養バランス、体調維持が保たれるようにと検討、最期まで「口から食べる」ことに拘り提供してきた結果、大変喜ばれていたように思います。

家料理では、ご利用者に合ったメニューを作るのは難しい部分もありましたが、外食ドライブが出来ない分、居室から庭先に出て、皆で作った料理を食べることで雰囲気も変わり楽しく食べる事が出来たと思います。

常食や軟食摂取が難しい中での料理は、刻みやペーストにすれば何でも「食」する事は出来ますが、「食材を見て楽しむ」事が出来ず、今後どうすれば出来るか検討しなければならないと感じました。

川俣道の駅まで春と秋に2回ドライブする事が出来ました。春は水田が青々としている稲苗を見、秋は実った稲を見て四季を感じる事が出来たのではないかと思います。

食前体操は、進んでされる方はおりませんでした。午前のレクリエーションに参加されたり、頬のマッサージ等で補ってきました。また、新たに入居された方は、言葉で発したり、曲に合わせて唄われたりしています。

## 3. 入浴について

個々に合った入浴方法を随時検討しながら、終末期を迎えても我が家のお風呂にゆったりと入って頂いた事は、職員にとっても「今日も入れた」と喜びを一緒に感じ、体調が優れない時はとても心配で、本当に家族以上の経験をさせて頂きました。また、これらの提供にあたっては、看護師や他ユニット職員の協力がなければ何もできないほど大きなものでした。

週2回の入浴で、入浴後、保湿のためローション等を塗布した時は、肌も潤いとても良い状態なのですが、次回の入浴の脱衣時には乾燥してしまい落屑となっていたため、今後、いかにスキントラブルを軽減できるかが課題と感じました。

体調不良により入浴出来ない方には、清拭や着替え、足浴、手浴により清潔保持に努める事が出来ました。

#### 4. 排泄について

個々に合わせたパット、おむつカバーを使用することにより、皮膚トラブルを防ぐ事が出来ました。しかし、尿臭の強い方に関しては色々と試行しておりますが、まだまだ対策改善が必要な状態です。

オムツOには出来ておりませんが、トイレでの排便コントロールは出来ており、現在4人の方がトイレで排便をする事が出来ています。しかし問題点もあり、便座への移乗や座位保持時の転倒等のリスクもあることから、クッション等で対応していますが十分な注意が必要です。

トイレに座る事は、よりスムーズな排泄を促し、そこで排泄することでオムツ内も快適となり、羞恥心やプライバシーも軽減されたかと思えます。

#### 5. ユニット内の取り組みについて

体調不良者3名の方の看取り介護をさせて頂きました。基本的な生活は基より生活空間、コミュニケーションの回り方、寄り添うケアを目指し様々な形で毎日話し合いをしてきました。

休暇後の出勤時に状態変化が認められケアの内容が変わっていることもあり、連絡ノートは欠かす事が出来ませんでした。しかし、他ユニット職員や多職種の方々のご協力により、最後まで大切な時間に関わらせて頂けたと感じております。

#### 6. 行事の取り組みについて

皆さんと一緒にレクリエーションや行事に参加することが出来良かったと思えます。特に西棟での行事にはベッドごと移動し参加する事が出来ました。

なかなか外出できない皆さんと一緒に、春と秋に川俣までドライブに出掛け、車内で食べたアイスクリームの味はきっと忘れられないと感じております。

#### 7. 一年を振り返って

亡くなる方が続き、少人数となったことから密度の濃いケアを求められながらも通常通りのケアとなってしまう、もう少し寄り添うケアが出来たのではないかと反省しています。

また、言葉遣いには十分注意していたつもりですが、気が付くと少し荒い口調になってしまった時があり、今後改めて行かなければならないと思いました。

終末期を迎えた方のご家族と職員の気持ちが一つにならず、本人に寂しい思いをさせた面もあったと思えますが、声掛けを多くしたり、多職種の方々の協力もあり、少しは寂しさを取り除く事が出来たと思えます。

何をしたいのか、どう思っているのか、何を考えているのか（動作・感情・思考）のケアを特に必要としているユニットだったのでと思っています。しかし、色々な局面にぶつかった時、職員同士や多職種の方々と納得の行くまで意見交換し、疑問があればその都度話し合いをしてきました。日々のケアが変わるのが常日頃でも、それにあつたケアを目指し提供できたことは、少しでも「楽しい日々」を過ごして頂けたのではないかと感じています。

## 1. 生活全般について

今年度の家目標は、“ご利用者の個性を尊重し、優しく、丁寧に個々にあったケアを行い、一日一日の生活が充実し送れるようお手伝いをする。”でした。

我が家では7名での生活が始まりましたが、2名の方がお亡くなりになりました。1年前までは、毎食離床し自力摂取されていましたが、次第に体調が崩れ1名の方は、体も小さく臀部に褥瘡があり朝夕2回処置をしていました。もう1名の方は、身体が大きい方でしたが、体交等を工夫し、褥瘡も出来ることなく綺麗な身体で旅立たれました。

3月には新しい入居者が入り新しい風が舞い込んできました。先に入居されていた方は馴染みの輪ができており、そのような雰囲気の中、トラブルにならないよう試行錯誤し環境作りをすることで、早く馴染んで頂き、信頼関係を築いて行こうと努力しているところです。

朝はラジオ体操から始まり、レクリエーション、食前体操と心身の機能維持に努めて来ました。また、居室での生活が多くなる方へは、音楽を聴いて過ごして頂いたり、離床しレクリエーションの場に行き、賑やかな雰囲気だけでも味わって頂いたり、環境作りにも気を配って来ました。

## 2. 食事について

「口から食べる事」の大切さを念頭に置き、終末期の方にも最期まで食べて頂こうとケアに励んで来ました。

ある方は自力摂取で、食べる事が大好きな方でしたが、ある日から「要らない」と残されるようになり、早く寝かせて欲しいと訴えるようになりました。大好きだった食事が要らないなんて考えられず、食べないと体調も悪化してしまうという思いから、突然の変調に驚かされ、ケア会議で話し合い、結果、無理強いせず、穏やかに食べられる時に食べて頂こうとなりました。最期の一週間位は、OS-1の氷を数個口にするだけでしたが、それでも「うまい」と言われた時には、「口から食べられる」ケアの重みを感じました。今思えば、「もう要らない」と言い始めたころにはご自分の最期が分かっていたのかも知れません。

もう1名の方は、食べることや、お酒が大好きだったと云う事もあり、お茶はむせるが、ビールでは、むせることなく飲む事が出来るので、少しでも好きな物を口にして頂こうと、ご家族の協力により、ビールを準備して頂き、食事や行事に飲まれていました。終末期に入り最期まで、自分らしい生活を送って頂きたと云う思いから、お亡くなりになる数日前まで、少しではありましたが大好きなビールを口にして頂きました。

また、食前の「パ・タ・カ・ラ」体操は、職員同士で協力し行って来ました。職員が声を出すことで、ご利用者さんも声を出していました。なかには口すぼめ体操として、風船膨らましをして頂きました。

朝は、特に美味しく食事を摂って頂こうと口腔内を綺麗にしてからフロアへ移動しました。これからも、少しでも、口から美味しく食べられる環境作りに努めて行きたいと思います。

次年度は、形が崩れ何の料理か一目で分からない超刻みやペースト食の場合、配膳する時にこれは何ですと説明する事に心掛けたいと思います。

## 3. 排泄について

個々に合った排泄方法等も検討し、トイレでの排泄も大事にして来ました。また、随時、個々に合った排泄介助を行うことで、皮膚のトラブル防止や臭いの軽減を図って来ました。衛生面においても、十分な配慮を行うと共に、パットを随時見直したり、排泄交換時は洗浄、ローションやワセリンを塗布し皮膚の保護に努めて来ました。

尿臭のきつい方のズボンやパジャマ、ラバーシート等を毎日洗濯するようにしたことにより、尿臭が軽減されたように思います。また、汚物を新聞紙に包んだり、換気もまめに行うことで尿臭対策に努めてきました。

ご利用者の中には、定期的に浣腸をし、トイレで排便するよう促した結果、精神が安定してきたからなのか、毎日トイレで自然排便が見られるようになりました。

#### 4. 入浴について

高齢化・重度化により皮膚も弱く、入浴後の皮下出血が時々見られるため、慎重に洗身や着脱をするように心掛けましたが、着脱のため掴んだ時や衣服を脱ぐ時に摩擦で出来てしまいました。次年度は、更に慎重に対応し皮下出血を防ぐよう周知していきたく思います。

スキンケア対策として、個々に合った入浴剤、ローション、ワセリンを使用したところ、肌に潤いを保てました。

今後も安全で快適な入浴を提供するため、対応を統一出来るように家会議で随時話し合っ行ってきたいと思います。

#### 5. 行事の取り組みについて

ほぼ室内での行事でしたが、ホーム全体の行事取り組みの中で「外食ドライブ、七夕会、温泉ツアー、夏祭り、敬老会、紅葉狩り、ミニ運動会&芋煮会、クリスマス会、餅つき会、新年会、団子さし、節分（豆まき）、ひな祭り」に参加することができ、その都度、皆さんの笑顔を沢山見る事が出来良かったと思います。中でも、他の家の方の賀寿祝いに職員が一丸となり協力し合い、少人数の職員でも盛大に行え良かったと思います。

初の温泉ツアーでは、我が家から2名の方が参加され、本当の温泉に入る事が出来、大変喜ばれました。

家料理では、厨房より担当の方が参加し、ご利用者と一緒に作ることで食事を楽しく出来たことが良かった。

今後も、出来ることを大切に、活気のある生活を送れるようお手伝いをして行きたいと思います。

#### 6. 一年を振り返って

我が家では2名の方がお亡くなりになりましたが、他の方は、重度化するほど体調を崩す方もなく過ごせた事は良かったと思います。

今年度は、一人ひとりへの関わりを重視したケアに当たって来たことから、多くの笑顔が見れると共に多くの発語を聞くことができました。また、精神も安定し穏やかに過ごせたことと思います。

家の壁飾りとして、一緒に季節に合わせたちぎり絵を作り、飾ることで四季を感じる事ができたのではないかと思います。

また、村祭りにも出展し見学にも行きました。目標を持つことで楽しく作品作りが行え、ご本人の自信にも繋がり充実した生活を送れたように思います。

職員の言動や行動は、ご利用者に大きく影響するので、穏やかな気持ちで接する事を心掛けケアに当たって来たことで、落ち着いて過ごされている様子が窺え、改めて関わり方の重要性を考えさせられました。また、職員同士のコミュニケーションと多職種間との連携もしっかりと取れていないと統一したケアが出来ないと痛感しました。

次年度もご利用者の気持ちに寄り添い、個々に合った関わりをし、楽しく安心して生活を送れるようケアに当たって行きたいと思います。

## 1. 生活全般について

高齢に伴う身体機能の低下や認知症状の進行などもあり、今まで出来ていたことが出来なくなって行く様子を日々生活ケアの中で実感した一年だったのではないかと思います。

我が家のご利用者は98歳の方を筆頭に、皆さん食欲や体力もあり元気な高齢者ばかりです。

なかには季節の変わり目に体調を崩される方もおりましたが、看護師と連携を密にし支援にあたってきた結果、体調も回復され変わりなく過ごすことができました。

また、認知症状のある方に対しての支援については、日々悪戦苦闘です。認知症の方に対しての知識と経験不足から気分を損い不快にさせてしまったのではないかと思います。訴えや声をしっかり聴くことが大切だと強く感じました。しかし、何よりもご利用者全員一人も欠けることなく1年間元気で過ごすことができ本当に嬉しく思います。次年度も皆さんが元気で日々を過ごせるようにより良いケアに努めて行きたいと思います。

## 2. 食事について

日々の体調の変化に応じて食事形態を見直して対応してきました。特に誤嚥には十分留意しながらケアにあたってきました。

以前、自力摂取されていた方が体調不良により、自分で食べることが出来なく全介助に移行。その日の体調に合わせ、安全に嚥下が出来るよう工夫した介助をしてきました。

今後も、最後まで自分の口から食べられるようにして行きたいと思います。

また、ある方は食べるペースが速く、口の中に食べ物があってもどんどん詰め込んでしまいむせるため注意深く見えています。

ペースト食の場合、いつも彩りが、白や茶、緑、時々オレンジと云った色合いになってしまいます。食べることが唯一の楽しみなのに毎日同じ様な色合いで食欲が湧いてくるかなと配膳をしながら思っています。今後、「食べることの楽しみ」について、多職種間と再度見直しを重ねて行きたいと思います。

## 3. 排泄について

排泄委員を中心に、尿量に応じたパットを使用することとし、見直しが必要な場合は試行期間を設け、個々に合ったオムツやパットを検討し対応してきました。同時に消臭対策にも力を入れ取り組み、尿臭の強い方の対応として、臭いの原因となる衣類やリネン等の交換と洗濯を毎日行い尿臭軽減に努めてきました。また、排泄交換時には洗浄を欠かさず行うことで居室内の尿臭なども軽減しています。今後も引き続き消臭対策に取り組んで行きたいと思います。

## 4. 入浴について

個々の身体状況をしっかり把握し一人ひとりに合った入浴方法で安全且つ安楽、安心した入浴を実践することが出来ました。また、入浴委員を中心に、楽しんで入浴できるように浴室に観葉植物を置いたり、季節に合わせた設えを行ったり、音楽を聴いて頂いたりしてゆ

っくり入浴できる環境作りに取り組んできました。

皮膚のトラブル対策として、個々に合った入浴剤を使用したり、入浴後に保湿クリームやワセリンなどで肌の保湿に努めました。今後も、安全で楽しくより良い入浴ケアが出来るようにして行きたいと思います。

#### 5. 行事などの取り組みについて

その日の体調を見ながら、できるだけレク活動やホーム内行事やドライブ等に参加して頂き、身体を動かすことで気分転換とストレス発散して頂けるようにした。

朝のラジオ体操、昼のパタカラ体操、夕の食前体操等は毎日行うことで習慣になり自ら声を出して身体を動かされています。今後も体調維持の一環として取り組んで行きたいと思います。

#### 6. 一年を振り返って

我が家に限らず他のユニットも同じだと思いますが、高齢に伴い身体面や精神面にも日々変化が見られます。毎日のケアの中、いつもと違う状態だと感じた時には、その変化を見逃さずに必ず連絡ノートやケースに記録しておき、更に、報告・連絡・相談をきちんと行い、多職種とも情報を共有しながら対策を考えケアに繋げて行かなければ、より良いケアはできないと改めて感じた一年でした。

また、東日本大震災から今年で6年目を迎えました。毎年3月11日を迎える度に震災当時のことを思い出します。今年は、私達にとってもいいたてホームにとっても正念場の年だと感じています。

## 1. 生活全般について

こもれびの家の年間目標として「ご利用者の身体面や精神面を理解し、寄り添い一人ひとりのニーズをしっかりと把握し日々のケアに努める。」を目標に掲げ、1年間ケアに努めてきました。

現在、6名のご利用者ですが、職員と関わりあう時間は以前より多くなり、寄り添ったケアが出来ていると感じています。

また、個々の生活面をサポートしながら、できない範囲をお手伝いし、レクリエーションへも参加を促すことによって、職員や他者との交流を深めることが多くなり、楽しく過ごせていると思います。

一日一日の関わりを大切に、今できる事を日々考えながら、職員間で話し合い、個々に合った最善のケアが出来た1年でもありました。今後も生活リズムに合わせた生活リハビリを通して思いやりのある心がこもったケアをして行きたいと思います。

## 2. 食事について

個々の状態によって食事形態を工夫し、口から食べることを大切にしてきました。

例えば、経管栄養だけだった方でも毎食ペースト食を食べてもらったり、刻み食と常食のおかずを半々に盛り付けたり、粒上の固形物でむせりが見られる時はお粥からスベラガーゼに変えたり、おかずのキザミ食をソフト食に変えたりと、常に食事メニューを説明してから目の前で盛り付けてきたことから楽しんで食事をして頂けたと思います。

また、1日の摂取カロリーが摂れるよう工夫してきた結果、残食も減ってきました。

## 3. 入浴について

浴槽の縁に取り外し可能な手すりを設置したり、立位が難しい方にはスライドボードを活用することで、全員が安全に浴槽に入れるようになり満足されています。

現在、個浴利用者が4名、機械浴利用者が2名。寒い時期は脱衣室に電気ヒーターを設置、部屋を温めてから利用し、洗身の時は足浴用の容器にお湯を入れ足を温め、寒くならないよう工夫しています。また、浴室内で民謡や演歌等を流し、香りや色がついた入浴剤も活用することでリラックスした入浴ができたのではないかと思います。

## 4. 排泄について

オムツ使用者が2名、他4名はトイレでの排泄を基本とし、特にプライバシーに最善の配慮をしながら対応してきました。また、排泄パットも日中と夜間帯に、個々に合わせた対応をすることで肌トラブルが起きないようにしています。

排泄の状態に変化があった時は、看護師に相談し適切なアドバイスを受けることで快適な排泄ケアに繋がった。

## 5. ユニットの取り組みについて

ゆっくり寛げるよう、テレビの前に車椅子でも利用できる炬燵を置き、傍に茶筆筒も置くことで家庭的な雰囲気づくりをしています。また、一緒に作品づくりを行ったり、居室の入口に季節の行事が分かる飾り付けをすることで大変喜んで頂いています。

## 6. 一年を振り返って

職員との信頼関係も築かれてきましたが、今後も馴れ合いにならないよう自立支援に心掛け、その人がその人らしく尊厳をもって生活できるよう頑張って支援して行きたいと思います。